

五、城東地区

(一) 大川・三島神社 みしまじんじや

棟札 むなふだ 町文化財 昭和六十三年四月指定

彫刻 ちようこく 町文化財 平成元年四月指定

国道一三五号線のすぐ上にある大川の三島神社は、大川を守る神社として信仰しんこうされています。神社の周囲しゅういからは縄文時代じようもんの土器どきや、古墳時代こふんの土師器はじきなどが出土しゅつどしていたり、ナギヤホルトノキなどの巨木があつたりするところから、昔から大川の中心として、神様を祀まつっていた場所と考えられます。

最初に神社が建てられた年はわかりませんが、社殿しゃでんや鳥居とりいなどを建て直した時の記録を示した棟札むなふだが残っています。一番古いものは室町時代むろまちの享徳三年きやうとく(一四五四年)のもので、当時、白田などこの地を治めおさていた加藤氏などによって建て直されたことが書かれています。明応九年めいおう(一五〇〇年)や大永四年だいえい(一五二四年)の棟札もあり、室町・戦国時代の記録として貴重なため町文化財に指定されています。

す。

大川の三島神社に祀られている神様は事代主神ぬしのかみで、その左右には伊豆・箱根大権現だいこんげんが祀られています。

なお、三島市の三嶋大社では、事代主神とおおやまつみのみことふたはしら大山祇命の二柱の神を三嶋大明神として祀っており、この三嶋大明神は伊豆の各地で祀られています。

現在の社殿は、嘉永六年かえい(一八五三年)九月に、村民六十八名等による寄進きしん三五〇両により建て直されたもので、社殿正面や脇障子の彫刻は見事で、これらの彫刻も町文化財に指定されています。

また、拝殿はいでんの天井てんじやうには建て直しの中心になり、多額の寄進をした大川村名主の木村恒右衛門つねえが詠んだ漢詩が書かれています。この詩は中国の昔の国であつた夏が、堯ぎやう・舜しゆん・禹うの三代の王によって栄えたことを詠み、大川村がずっと栄えることなどを祈つたものです。



大川・三島神社 社殿正面彫刻



側面彫刻 左：張飛 右：關羽